



H コマンド

この章では、コマンド名が H で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

hw-module logging onboard

エラータイプ別 Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) をイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **hw-module logging onboard** コマンドを使用します。OBFL をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します (OBFL をディセーブルにすることは推奨されていません)。

```
hw-module logging onboard [counter-stats] [environmental-history] [error-stats] [interrupt-stats]
[module num] [obfl-log]
```

```
no hw-module logging onboard [environmental-history] [error-stats] [interrupt-stats] [module num]
[obfl-log]
```

シンタックスの説明

counter-stats	(任意) OBFL カウンタ統計情報を指定します。
environmental-history	(任意) OBFL 環境履歴を指定します。
error-stats	(任意) OBFL エラー統計情報を指定します。
interrupt-stats	(任意) OBFL 割り込み統計情報を指定します。
module num	(任意) 特定のモジュールの OBFL 情報を指定します。
obfl-log	(任意) OBFL (boot-up/uptime/device-version/obfl-history) を指定します。

コマンドのデフォルト設定

イネーブル (推奨される状態)

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(2)	counter-stats キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、不揮発性メモリに格納されているファイルにイベントが記録されます。これらのデータは、シスコ製のルータやスイッチに搭載されているハードウェアカードの障害を診断するときに使用できます。オンボードのハードウェアが起動すると、監視対象の領域ごとに最初のレコードが作成され、それが後続のレコードの基準値となります。このコマンドでは、継続的にレコードを収集し古いレコードをアーカイブする循環アップデート方式によって、ハードウェアに関する正確なデータを確実に提供します。データは2つの形式で記録されます。すなわち、連続するファイル内のデータのスナップショットを表示する連続情報と、収集中のデータに関する詳細を提供するサマリー情報の2つです。現行データおよび履歴データのレポートを表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。

このコンフィギュレーション コマンドは、デバイスに装着されているモジュールに適用可能です。モジュールを取り外して別のデバイスに装着すると、このコマンドのコンフィギュレーションは新しいデバイス上でそのモジュールに適用されます。

このコマンドにライセンスは不要です。

例

次に、重大度 7 (デバッグ用) の OBFL メッセージログに記録するように設定する例を示します。

```
Router> enable
switch# configure terminal
switch(config)# hw-module switch 2 module 1 logging onboard message level 7
switch(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
attach	特定のライン カード上でコマンドを実行するために、そのカードに接続します。
clear logging onboard	オンボード障害ログを消去します。
show logging onboard	オンボード障害ログを表示します。